

指定管理者による公の施設の管理状況評価（平成30年度）

施設	名称	栃木市おおひら歴史民俗資料館
	所在地	栃木市大平町西山田898-1
	施設内容	郷土の考古・歴史・民俗文化等に関する資料を保護活用し、郷土意識の高揚と教育、学術及び文化の振興に寄与する歴史民俗資料館及び郷土資料館「白石家戸長屋敷」からなる複合施設
指定管理者	名称	特定非営利活動法人 自然と人間の森おおひら
	所在地	栃木市大平町西山田857
	主な業務内容	子供たちの森林環境教育や市民の自然体験に関する事業および都市と農山村の交流促進に関する事業

(1) 市民の平等な利用の確保及びサービスの質の向上の取組み							
評価項目	①	当該施設の設置目的に基づいた施設運営の基本方針が明文化され、職員（社員）が適切に理解しているか					
	②	市民の誰もが利用しやすいように、施設利用の利便性、平等性の確保に配慮されているか					
	③	アンケート調査等により、利用者等の意見を把握し、それらを反映させる取組みを行っているか					
	④	利用者からの苦情等に対し、適切な取組みを行っているか					
管理状況評価指標	指標名		前年値	実績値			
	利用者数(有料)		8,990名	8,675名			
	利用者数(総数)		12,631名	11,262名			
	アンケート回収数		304枚	220枚			
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	25	I	1.0	25	I	1.0	25
指定管理者コメント	二年連続で来館者が一万人を超えました。利用者の安全確保・快適な空間の提供をめざし、景観整備と合わせ、見学路のバリアフリー化などの安全対策を進め、郷土資料館についてはデイサービスの利用者が増加しました。また、歴史民俗資料館の平日の高齢者・障がい者の無料入館を昨年度に引き続き行ないました。また、地元ぶどう園との共同企画のバスツアーで大幅な集客増加につながりました。アンケートの回収数は減少しましたが、職員による来館者への声かけ・イベント案内を積極的に行うことでリピータが増加、来館者の意見を吸い上げ、展示品のレイアウト変更・キャプションの変更など、具体的に館運営に反映させています。映画・ドラマは4本の撮影に利用され、特に映画「地上の星 二宮金次郎」には地元住民がエキストラとして参加するなど、新たな貸館の形ができました。						
施設所管課コメント	指定管理者の管理状況に対するコメント 多数ある施設の老朽化が進む中、景観に配慮した日常的な植栽管理や園路整備等の改良によって施設の快適性、利便性が保持されている。 地元のデイサービスの来館が増加するなど、平等性が確保されている。 体験学習へのスタッフの役割分担、事前に来館団体との打ち合わせなどきめ細やかな対応を行い、リピーターを増やすなどサービスの向上に努めている。また、歴史的価値を正しく伝える努力を行い、有識者や専門家との人的関係を独自に築いた上で、展示内容などの指導を積極的に受け、自ら資料調査を行うなど質の高いサービスを行っている。						

(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み

評価項目	①	事業計画通りに管理運営をしているか
	②	特色ある広報活動等により、新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか
	③	開館時間の延長や新規事業の実施等により、利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか
	④	地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業等、利用者や地域住民の満足度を高める取組みを行っているか

管理状況評価指標	指標名		前年値	実績値
	ホームページ更新回数		22回	21回
	協働事業実施数		13回	15回
	協働事業参加者数		2,900名	3500名
	自主事業数		29回	31回
	展示替え		3箇所	2箇所
	施設・イベント案内配布数		29,300部	8000

評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	20	I	1.0	20	I	1.0	20

**指定管理者コメント**  
 本年度は市内12小学校の授業に利用されており、今までの学校対応が評価されていると思います。施設案内配布は資料館パンフレットのほか、当館のクリスマスイベントの案内を光と音のページェント実行委員会チラシで大平地域全戸に配布され、昨年市内の全小中学生に配布した「資料館の夏休みイベント」は効果がなく本年は中止し、代わりに地元業者との連携バスツアーのチラシが首都圏に大量に配布されました（両方とも印刷費は支出していないので配布数には含めず）。地域との連携・協働については、戸長屋敷の特色を生かし、市国際交流協会や商工会の婚活会場・煎茶教室・吊るし飾りなどの市民団体との共催・協賛事業を、更に資料館リソースを活用して「明治維新150年記念」企画展や県文書館への資料貸出し・市生涯学習課との連携事業を行いました。引き続き「まちの駅ネットワークおおひら」の事務局、さらに館長が新大平下駅前「光と音のページェント」の実行委員会会長・実働組織「大平わいわいテラス」事務局長として参画するなど地域との連携事業を展開しました。

**施設所管課コメント**  
 指定管理者の管理状況に対するコメント  
 市内小学校の授業利用は12校で市内最大の来校数で、体験教室など効果的な取組みが行われた。商工会の婚活など、指定管理制度ならではの特色ある施設活用が行われた。  
 新規事業では本格的な企画展示で県立文書館資料や地元資料を使用し、施設の本質的価値を発揮した、来館者の満足度が高く、新規利用者の開拓が行われた。  
 地元まちづくり団体や育成会、文化団体と良好な関係を築いており、共催・連携事業が活発に行われた。所管課のみならず市他部局の協力、連携関係が構築されており、独創的な事業を実現し協同事業参加者数は昨年を大幅に上回った。  
 地元タウン誌や新聞取材、ケーブルテレビを的確に利用し利用者増加を図っている。

(3) 施設経費の削減の取組み							
評価項目	①	指定管理料等の収支手続きは適切に行っているか					
	②	経費の削減がサービス低下につながっていないか					
	③	清掃、警備、施設の保守点検などを一部再委託する場合、経費節減等を考慮して適切に行っているか					
	④	建物、設備、備品の管理について、適切に維持管理し、省エネ、省資源、環境配慮物品の購入など環境への配慮も適切に行っているか					
管理状況評価指標	指標名		前年値		実績値		
	光熱水費		158,648円減		25,353円減		
	リース料		12,000円減		±0円		
	修繕費		1,047,568円増		1,230,580円増		
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	15	I	1.0	15	II	0.8	12
指定管理者コメント	<p>指定管理料の収支手続きについては、資料館職員と担当理事の2人制で行い、年度末には税理士に確認指導を委託しています。再委託業務については、庭園整備は職員が行い、コストをおさえながら外周見学路、竹林整備や景観向上の整備を行い、利用者から好評を得ています。また、その他の再委託業務については、改善点を指摘し、委託業務の確実な実施を条件に、前年と同一の業者に委託しました。光熱水費については、小学3年生の「昔のくらし」体験用水稲栽培の水道代、ロケ利用増加に伴う増加があり、また、期首予算を減額したため昨年に対予算削減幅が減少した。ロケ利用料などの増収および経費削減努力により、郷土資料館のLED化、無料休憩所の電気改修工事、更に老朽化した母屋納戸板戸・大玄関の舞良戸・敷居の新調・修繕ができた。また、温湿度のサンプリング箇所を重文弓展示と収蔵庫奥の2ヶ所追加し管理の強化を図った。</p>						
施設所管課コメント	<p>指定管理者の管理状況に対するコメント            施設管理費が年月経過と共に増大する中、利用者に安全でより良い景観を提供できるよう努力している。            ロケによる施設利用の収入を施設の維持管理や修繕に廻し、施設の公共性や公益性に基づく経費の執行が行われ大きく評価できる。            植栽管理や設備保守等を自前で管理、修繕できる人材が確保され、経費削減のみならず施設の本質的価値の向上に寄与している。            重要文化財の温湿度管理では、サンプリング箇所の増加を自前で行い、保存環境に配慮されている。現状相対湿度±15～20%で推移したが、より小さい変動幅が望ましい。</p>						

(4) 施設の管理を安定して行う能力						
評価項目	①	管理運営する為の職員等配置や組織体制が確保されているか				
	②	職員（社員）の指導育成、研修等が十分に確保されているか				
	③	健康保険料・厚生年金保険料及び各種税金は適切に納められているか				
	④	財政状況に異常はないか <別紙参照>				
管理状況評価指標	指標名			前年値	実績値	
	人員配置数			4名/日	4名/日	
	勤務時間数（平均1人一日当り）			7.75時間	7.75時間	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	Ⅱ	0.8	16	I	1.0
指定管理者コメント	<p>職員は正職員・パート職員を合わせ6名が通常業務、NPO理事2名が運営にあたり、平日は最低3名/日の勤務体制を、土日祝日および団体向けもの作り体験対応時・イベント開催時には4名～6名を配置。また、指定管理運営経験者、所蔵品に対する専門家などを顧問として配置、管理能力の強化を図りました。職員の研修については、接客マナーの向上と、利用者への挨拶・声掛けなど日常的にOJTを行い、来館者のアンケート結果でも一定の成果を上げていると思います。更に、企画展開催前には職員に事前研修を行い、適切な案内ができるように努めました。社会保険は、法令通り該当者について加入、源泉税・消費税も適正に支払いをし、財政状況についても正常に運営していると考えます。</p>					
施設所管課コメント	<p>指定管理者の管理状況に対するコメント  常時3名の勤務体制を維持し、イベント時などは増員するなど機動的な対応を行っている。  防火管理者については、引き続き施設職員により対応できることを評価したい。  資料の取り扱い方については、有識者や専門家の指導を仰ぎ、事前に文化課と協議が行われており、丁寧な対応を心掛けている。  館所蔵の文書などの整理などが進められ、自ら資料の調査や掘り出しができる体制と人員が配置されている。</p>					

(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み						
評価項目	①	① 日常の事故防止等のための安全対策が適切に行っているか				
	②	② 緊急時の危機管理体制が整理され、適切に行っているか				
	③	③ 避難訓練や防災訓練を適切に行っているか				
	④	④ 利用者等の個人情報保護のための対策を適切に行っているか				
管理状況評価指標	指標名			前年値	実績値	
	消防訓練実施数			2回	2回	
	マニュアル更新件数			1回	3回	
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	I	1	20	I	1
指定管理者コメント	<p>来館者の安全を最優先に、事故防止対策は、昨年に引き続き見学路の整備の中で、段差の解消、立ち入り禁止区域の柵設置とハチ・ヘビの忌避剤の散布を行っています。特に今年度は高木伐採の予算措置をしていただき、それに付随する大木の伐根など外周路の安全対策が加速しました。職員の労災事故防止策としては、高所作業時には安全ベルト・ヘルメットの着用を励行しています。また、防災訓練は年2回実施、特に、「文化財防火デー」に因んだ訓練は、地元自治会・栃木消防署大平分署等の協力を得て総合訓練を実施、合わせて煙の中の避難訓練やAED操作訓練も行いました。また、危機管理については、Jアラートや、特別警戒など災害に対応できるようマニュアルを全面改訂いたしました。防火管理については、各部所の火元責任者を明確にし、日次のチェックマニュアルの見直しを行い、より実情に即したものに改善しました。</p>					
施設所管課コメント	<p>指定管理者の管理状況に対するコメント  文化財防火デーに合わせて防火訓練が行われ、文化財の保護に関する定例的なイベントとして地域に定着した事は評価できる。  施設の老朽化が進む中、事故防止対策については、日々の整備を行う中で見回りが行われ、安全上の問題点の洗い出しが行われている。問題点は月例報告会議などで協議議題として市側にも伝達されており、安全確認の十分な体制が取られている。</p>					

評価結果	配点	第1次評価点 (指定管理者評価)	第2次評価点 (施設所管課評価)
(1) 市民の平等な利用の確保及びサービスの質の向上の取組み	25	25	25
(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み	20	20	20
(3) 施設経費の削減の取組み	15	15	12
(4) 施設の管理を安定して行う能力	20	16	20
(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み	20	20	20
評価点合計	100	96	97
総合評価		A	A

第3次評価（選定委員会評価）				
評価	第2次評価点	選定委員会評価加点	第3次評価点	第3次総合評価
選定委員会コメント	コメント			

(4) 施設の管理を安定して行う能力

《 別紙 》

④ 財政状況に異常はないか

直近3カ年の情報を記入してください。

決算年次	平成30年3月期	平成29年3月期	平成28年3月期
資産総額	1,692,189	1,580,590	1,536,674
売上高	28,392,322	28,414,259	27,775,152
経常利益	111,599	43,916	248,288
当期利益	111,599	43,916	248,288
経常収支比率	100.4%	100.2%	100.9%

※ 経常収支比率について

本指標は、会社の資金繰りの実態を示す指標です。

この数値が100%未満であると銀行借入れをしなければ営業活動ができなくなるといわれているものであり、経常損失が生じていることを意味します。

決算年次	平成30年3月期	平成29年3月期	平成28年3月期
経常費用	28,280,723	28,370,343	27,526,864
経常収益	28,392,322	28,414,259	27,775,152
経常収支比率	100.39%	100.15%	100.90%

○経常収益（営業収益＋営業外収益）÷経常費用（営業費用＋営業外費用）×100で求めます。

指定管理者コメント

--